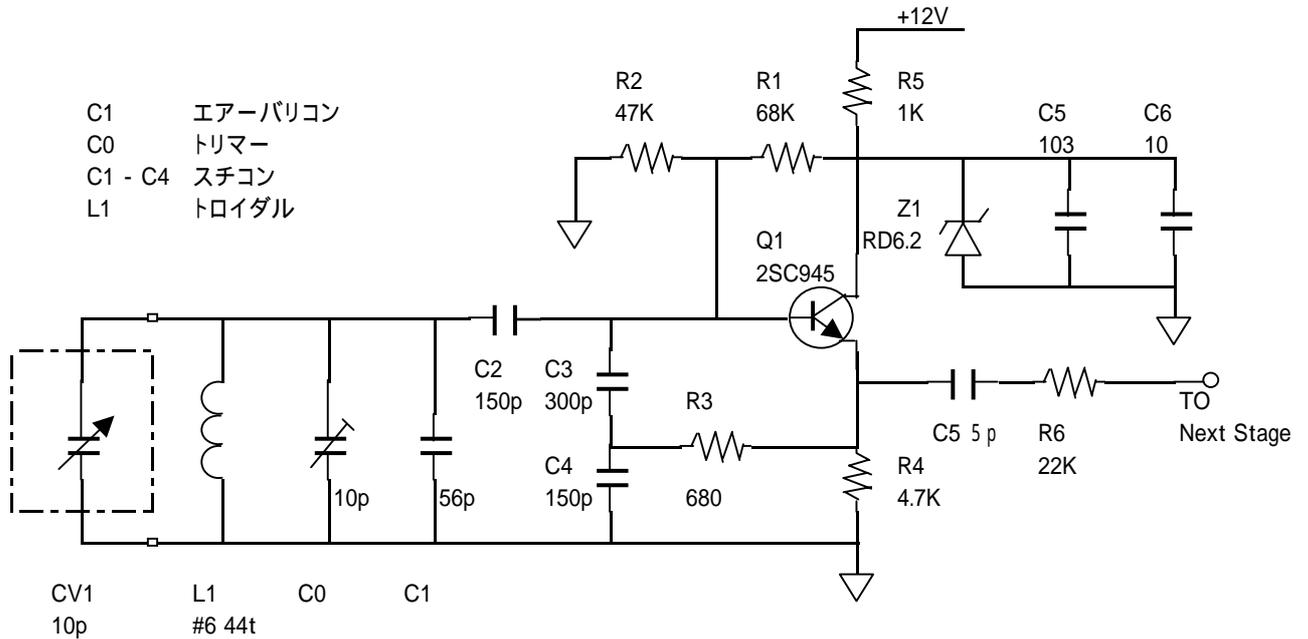


5MHz LO の発振回路の抜粋



備考0: Q1はずっと軽く働かせることが重要である。

備考1: ツェナーダイオードによりQ1コレクターの電位を6.2Vに固定する。Z1でQ1の温度補償を狙う。

備考2: R1とR2でQ1ベース電位を2.5Vに設定した。エミッター電位/電流は2V/0.5mAになる。

備考3: ツェナーダイオードへ流す電流はIEの約10倍とし5.5mAを狙いR5を1kオームとした。

備考4: R3は帰還量の調整で発振停止時の抵抗値より少し小さめの値を使用する

備考5: L1、C1～C4にFCZや磁器コンなどを使うと周波数変動が大きくなりNG。

備考6: 次段への接続は高い入力インピーダンスのFETドレイン同調である。

測定結果	用途	電源投入時	10分	30分	60分	120分
基板1	7MHz用	4986.4112KHz	335Hz	479Hz	679Hz	991Hz
基板2	21MHz用	9198.1352KHz	609Hz	674Hz	757Hz	—